

自治体の課題、現状

池田町では全ての部活動の休日部活動を令和9年度より地域展開することを目標に取り組んでいる。当町は中学校が1校であり町の中学生数は令和7年度までの出生数から推測すると、令和10年度まで増加するがその後減少に転じ令和15年度には113人まで減少することが見込まれる。令和8年度以降、生徒数の減少が見込まれる中、近隣の市町村とどのように連携するか、練習場所までの交通手段はどうするか等の課題解決に取り組む必要があり、保護者・地域住民の理解を深め、地域クラブ活動を安全かつスムーズに運営するための準備を丁寧に行うことが重要である。

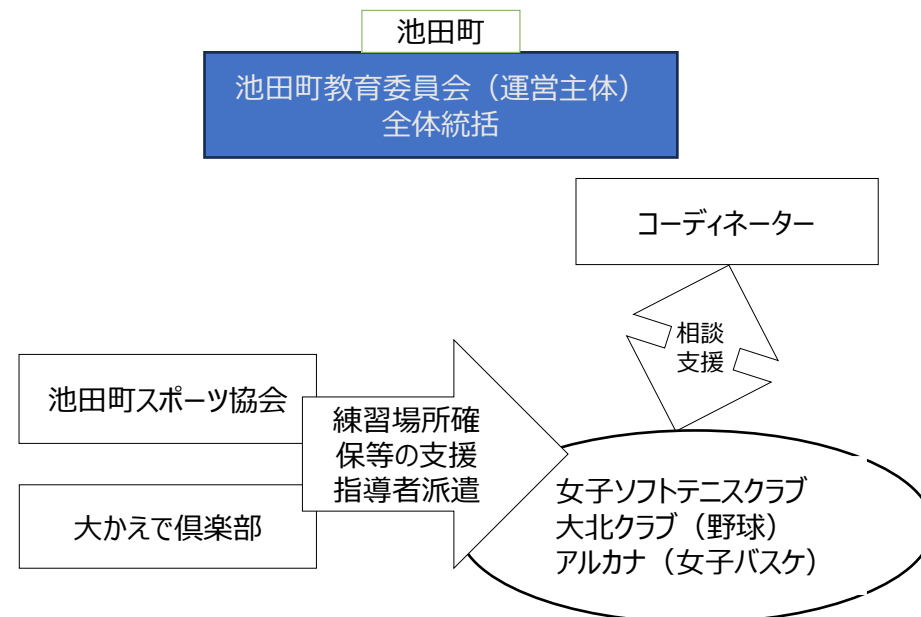
地域クラブ活動等の概要

中学校数	1校	全生徒数	195人
域内の部活動数	10部	実施した地域クラブ数	3クラブ
全体の指導者数	10人	全体の運営スタッフ数	4人
主な運営団体	大かえで倶楽部 池田町スポーツ協会		
主な種目	女子ソフトテニス 野球 女子バスケットボール		
平均的な活動回数	2回/月	年間平均参加生徒実数	3年：5人/クラブ 2年：2人/クラブ 1年：10人/クラブ
参加会費	300円/月	主な活動場所	中学校

取組の概要や成果

今年度は3つの部活動が休日地域クラブ活動を実施できた。また、陸上部については近隣の松川村地域クラブと池田町陸上クラブの2クラブ活動と生徒の受け入れの準備を進めた。生徒数の状況によっては松川村との連携が必要なため、部活動として活動している他の種目についても松川中学校と回数に違いはあるが合同の活動を行い、地域クラブ活動の試行を実施できた。また、令和9年度から休日の地域クラブ活動を行うため、指導者、小中学生、保護者に現在の部活動、休日の部活動または地域クラブ活動に対する意識調査を行い、今後に向けた資料を得ることが出来た。

運営体制図



自治体の課題、現状

少子化による部活動参加者の減少、単一団体としての部活動維持が困難になってきている現状がある。それぞれの部活動種目に応じた推進が適切であると提案された。

令和6年には女子バスケットボール部の地域クラブ化、令和7年度にはさらに2つの部活動を地域連携するモデル事業が実施された。その成果を加味し、今後のクラブ自立運営について課題を抽出しながら、解決策を検討する状況である。現在明らかになっている課題は指導者確保と関係団体との連携、保護者理解の促進が挙げられる。

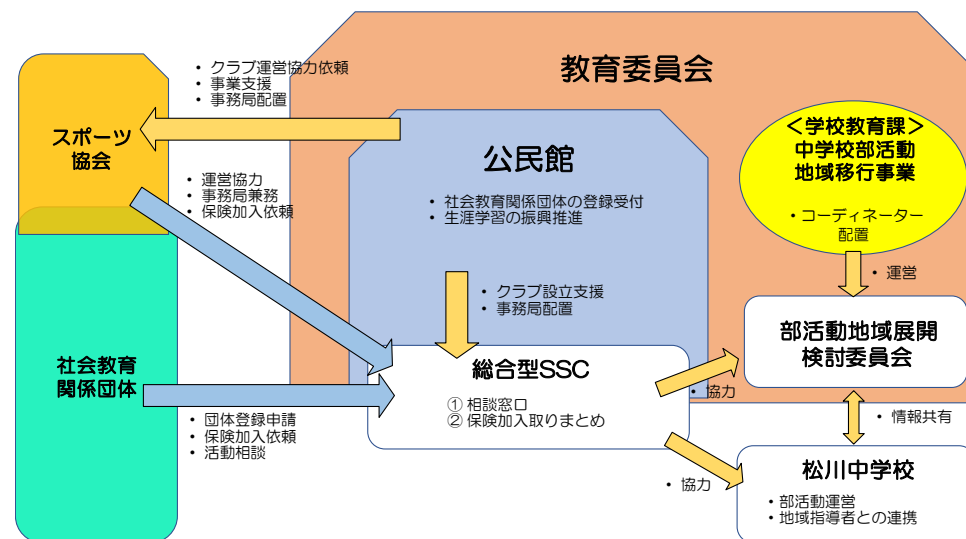
地域クラブ活動等の概要

中学校数	2校	全生徒数	251人
域内の部活動数	5部	実施した地域クラブ数	3クラブ
全体の指導者数	2人	全体の運営スタッフ数	14人
主な運営団体	総合型地域スポーツクラブ		
主な種目	バスケットボール、ソフトテニス、陸上		
平均的な活動回数	10回/月	年間平均参加生徒実数	3年：0人/クラブ 2年：12人/クラブ 1年：13人/クラブ
参加会費	0円/月	主な活動場所	中学校

取組の概要や成果

- 検討委員会を発足から3回開催し、主に部活動地域展開の現状把握や今後の推進方針作成についての意見交換を重視して行われた。
- 部活動と同じ種目の地域クラブ等に連携協力を依頼し、休日活動を優先として地域クラブ活動への移行推進を進める取り組みを行った。
- 休日活動を優先として、地域指導者の関わりを強化する取り組みを行った。
- 保護者説明会を実施し、地域展開の現状や今後の推進方針について、説明を行った。

運営体制図



自治体の課題、現状

中学生世代の人口に注目してみると、令和7年3月末時点で239人となっており、平成28年から令和2年にかけて減少した時期もあったが、10年前と比較すると増減はあまりない状況となっている。しかし、村内小中学校の児童生徒数を見ると、今後中学生の人口は減少傾向にある。

また、指導者不足や部活動を受け入れる事の出来る受け皿が不足しており、現状のまま既存のスポーツクラブ等に地域展開することは困難な状況である。地域クラブ運営のサポートや保護者の受益者負担軽減等の支援体制の整備が求められている。

地域クラブ活動等の概要

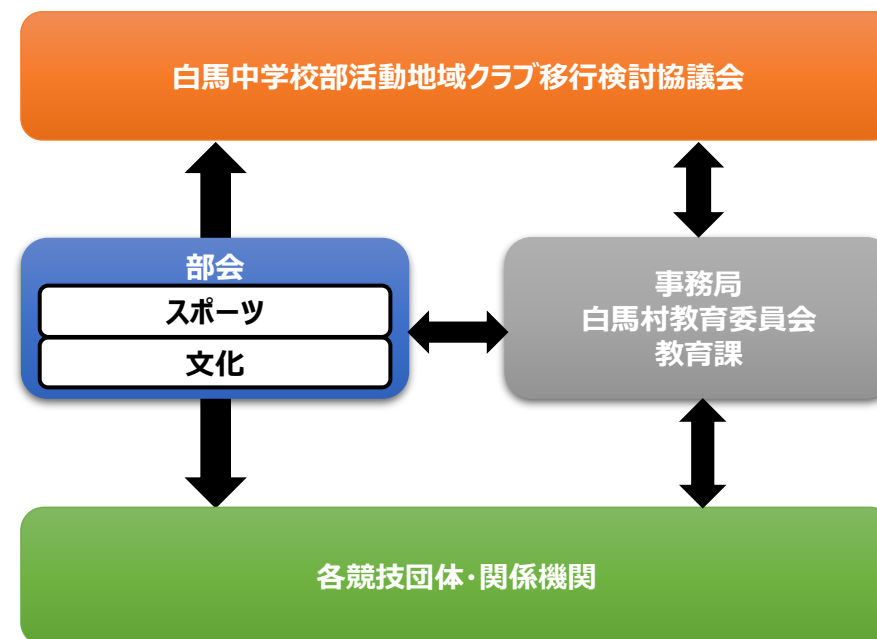
中学校数	1校	全生徒数	218人
域内の部活動数	10部	実施した地域クラブ数	0クラブ
全体の指導者数	8人	全体の運営スタッフ数	3人
主な運営団体	白馬村スポーツ協会（白馬村教育委員会）		
主な種目	陸上、女子バレーボール ほか		
平均的な活動回数	10回/月	年間平均参加生徒実数	3年：4人/クラブ 2年：8人/クラブ 1年：4人/クラブ
参加会費	クラブごとに設定	主な活動場所	白馬中学校 協和ウイング白馬

取組の概要や成果

令和7年度は中学校部活動に参加する生徒や既存のクラブ活動に参加する生徒が交わる状況であった。現状、白馬村として地域クラブ運営に対する整備ができていないことから、中学校部活動は残しつつ、段階的に既存クラブ活動へ地域展開をしていく方針を決めた。

来年度は指導者の発掘を行う必要がある。県が行う指導者リストの活用のほか、村独自での指導者バンク等の設置も検討をすすめていく。児童生徒及び保護者のニーズだけではなく、各クラブの指導者の声も聞きながら、スポーツ・文化芸術活動の種別を問わない活動機会の確保を推進していく。

運営体制図



自治体の課題、現状

休日のみならず、平日を含めた地域移行を目指し、令和5年度に「小布施中学校部活動地域移行検討協議会」を立ち上げ、委員を公募し、協議・検討を開始した。

協議の中で、教育委員会に事務局を置き、中学生を対象とした新たなスポーツクラブを設立することが決められた。

令和6年4月に「小布施町中学生地域クラブ」を設立し、令和6年度中に平日・休日ともに移行。最大の課題は、人的リソース及びそれらを雇用する又は謝礼を支払うための財源不足である。

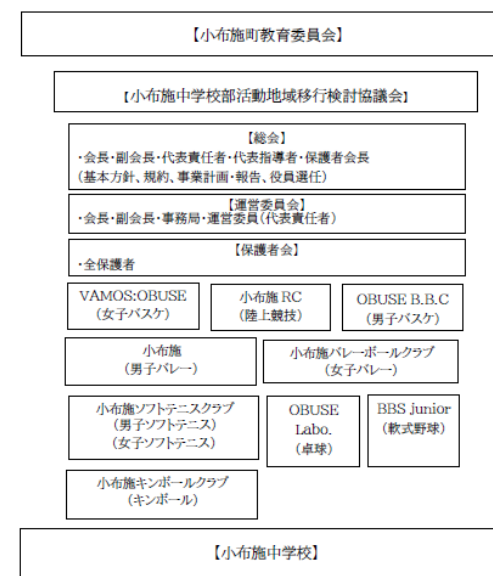
地域スポーツクラブ活動等の概要

中学校数	1校	全生徒数	281人
域内の部活動数	9部（令和5年度末）	実施した地域クラブ数	10クラブ
全体の指導者数	51人	全体の運営スタッフ数	2人
主な運営団体	小布施町中学生地域クラブ（小布施町教育委員会）		
主な種目	バスケットボール、バレーボール、ソフトテニス、陸上競技、等		
平均的な活動回数	4回/週	年間平均参加生徒実数	3年：5.3人/クラブ 2年：6.2人/クラブ 1年：4.9人/クラブ
参加会費	13,200円/年	主な活動場所	小布施中学校

地域移行関連の取組、成果

- クラブは町教育委員会の直営。10の種目クラブを設立。平日・休日ともに地域移行した。
- 指導者は、それまでの社会体育活動の指導者や部活動指導員を中心に委嘱。それらに町スポーツ少年団指導者や地域住民も指導者として加わった。
- 指導者研修会は3回開催。
- 町内在住者のみならず他市町村在住者も入会できる。

運営体制図



- 町教育委員会内に小布施中学校部活動地域移行検討協議会及び小布施町中学生地域クラブの各事務局を設置、コーディネーターを採用した。
- 小布施町中学生地域クラブの顧問は町長が、会長は町教育長が務める。各種目クラブに代表責任者、代表指導者、保護者会長がいる。運営委員は代表責任者が務めることとした。
- 指導者は、指導者登録申請に基づき、審査後、会長からの委嘱とした。

自治体の課題、現状

高山村では、令和5年度より、長野県地域クラブ活動推進ガイドラインに基づき検討を重ね「高山村部活動地域移行推進計画」を策定した。

教職員の部活動指導について、時間的、精神的に負担になる、専門的な指導ができず生徒のニーズに応えられていないと考えている現状がある。アンケートによると、部活動に入りたい児童は一定数いるが、専門的な技能の指導を受けることができ「活動したい気持ち」を最大限に尊重することが難しくなっている。そこで、生徒の望ましい成長やニーズに応じた生徒の気持ち最大限生かせるように、部活動の地域展開に向け検討していく必要がある。

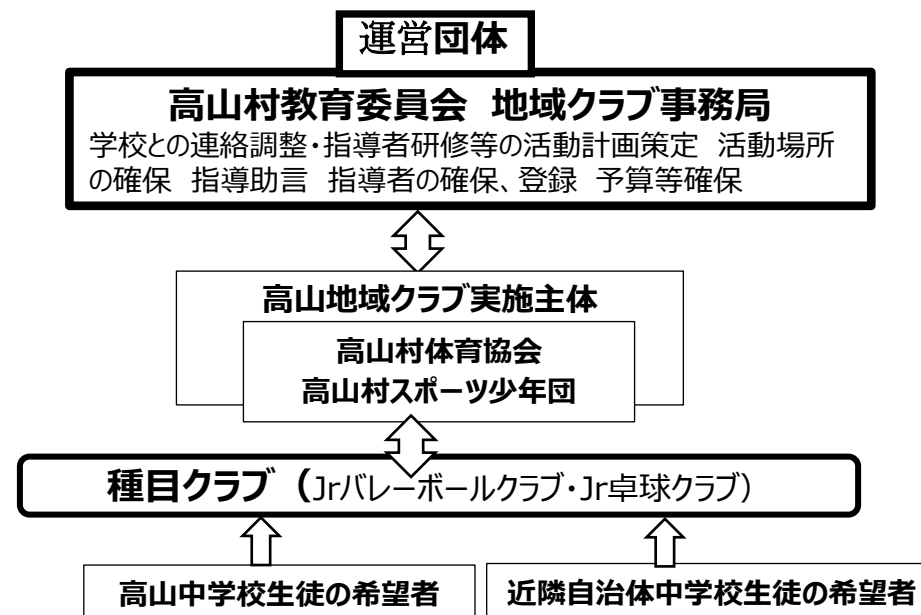
地域クラブ活動等の概要

中学校数	1校	全生徒数	148人
域内の部活動数	3部	実施した地域クラブ数	4クラブ
全体の指導者数	3人	全体の運営スタッフ数	4人
主な運営団体	高山村教育委員会		
主な種目	バレーボール 卓球		
平均的な活動回数	4回/月	年間平均参加生徒実数	3年：0人/クラブ 2年：7人/クラブ 1年：5人/クラブ
参加会費	1,000円/月	主な活動場所	学校体育館・社会体育施設

取組の概要や成果

部活動地域移行コーディネーターを配置し、6月に「高山村部活動地域展開検討協議会」を設置し、部活動の地域展開等に向けて、検討を開始した。4回の検討協議会を開催し、協議しながら運営体制の整備に努め地域展開を進めてきた。そのなかで、高山村教育委員会に事務局を置き、地域クラブの運営主体となること、また、高山村体育協会スポーツ少年団を実施主体として種目クラブを置くことを了承。バレーボール、卓球クラブで実証事業を行い、会費の額及び指導者謝金等、運営方法の検討と休日の地域クラブ化に取組、来年度5月に高山村地域クラブの設立総会を行うのめどがついた。

運営体制図



自治体の課題、現状

飯綱町では1校の中学校で活動していた部活動が、男女バスケット、男女バレー、男女ソフトテニス、野球、卓球、陸上、吹奏楽の9部活あった。令和6年度中に地域展開に向けて学校、保護者、指導者と懇談を行い、取組可能な団体からクラブ化に向けて地域展開事業を行うこととした。

令和7年度は、部活動から地域クラブとして活動する4団体(吹奏楽含め5団体)にあわせて、部活動として活動のなかった、バドミントン、剣道（軽音楽）が新たにクラブ化を行い、それぞれ平日も含めて地域クラブ活動を行った。

しかし、生徒数の減少やスポーツ離れ、指導者不足等部活動の地域展開を本格的に実施するための課題は多い。

地域クラブ活動等の概要

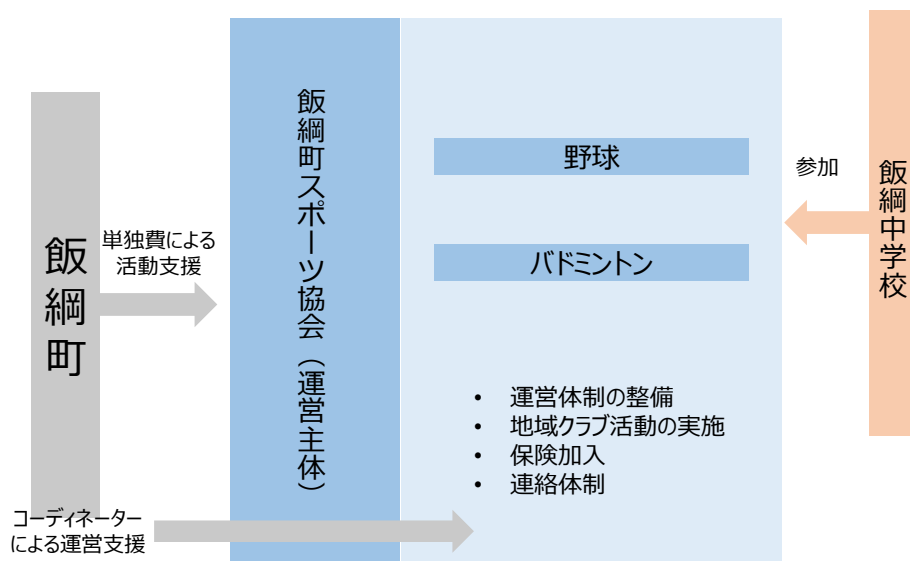
中学校数	1校	全生徒数	226人
域内の部活動数	0部	実施した地域クラブ数	6クラブ
全体の指導者数	31人	全体の運営スタッフ数	32人
主な運営団体	飯綱町スポーツ協会		
主な種目	野球、バスケットボール、卓球、ソフトテニス、バドミントン、剣道		
平均的な活動回数	16回/月	年間平均参加生徒実数	3年：3人/クラブ 2年：3人/クラブ 1年：10人/クラブ
参加会費	都度徴収	主な活動場所	飯綱中学校

取組の概要や成果

今年度は、人件費・賃金（1,439,312円）指導者謝金（1,259,500円）、地域クラブ活動に必要な消耗品費（209,999円）、学校間移動支援（472,340円）に取組んだ。謝金の適正な支出については、指導者の量と質の確保につながると思われるが、今年度は方向が見いだせず、令和6年度と同額の低い金額で支出した。適正な謝金の支出とそれに伴う財源の確保が今後の課題である。

再委託として取組んだ、自治体を跨いだ学校間移動支援は、地域移行前の合同部活動での取組を、そのまま継続する事が出来た。中山間地域での移動には多額の費用が必要となるが、飯綱町の中学生在が飯綱町でスポーツ活動を継続することの手法の一つになると考えている。

運営体制図



自治体の課題、現状

鉢盛中学校は、松本市今井地区、山形村、朝日村の1市2村による組合立の学校で、令和5年11月から部活動の地域展開について検討を始めた。学区が広域で、自転車通学が約9割を占める中、学区内に地域クラブも少なく、拠点次第では生徒の移動負担が大きくなることが予測されることから、鉢盛中学校を拠点とした「鉢盛クラブ」を創設。さらに参加費の徴収や指導者への報酬支払い等を業務委託。限りなく部活動に近い形での運営を目指しているが、今後は、適正な会費の設定や、関係者の役割分担の明確化が課題となっている。なお、令和8年2月から試行運用を開始している。

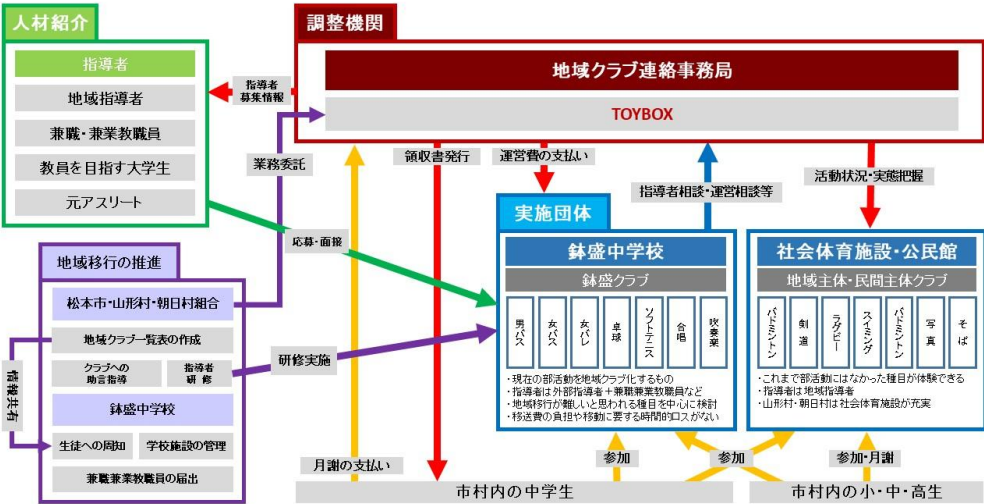
地域クラブ活動等の概要

中学校数	1校	全生徒数	395人
域内の部活動数	9部	実施した地域クラブ数	4クラブ
全体の指導者数	5人	全体の運営スタッフ数	12人
主な運営団体	松本市・山形村・朝日村中学校組合		
主な種目	男子バスケ、女子バスケ、女子バレー、卓球		
平均的な活動回数	4回/月	年間平均参加生徒実数	22人
参加会費	3,000円	主な活動場所	鉢盛中学校

取組の概要や成果

- 当初計画どおりの日程での試行開始には至らなかったが、部活動単位での丁寧な説明、顧問アンケート、指導者の継続意思確認、個別面談を通じ、関係者との合意形成に向けた基盤整備を着実に実施。拙速に進めず、現場の実情や意向を踏まえて方向性を整理したことは、持続可能な地域展開に向けた重要なプロセスとなった。
- 2月から試行運用を開始し、計3回の鉢盛クラブ体験会を開催。周辺校にも周知し、他校から約30名が参加する等、継続・発展に向けた第一歩を踏み出した。
- 本年度は成果創出というより、課題の可視化と基盤整備を進めた年度であり、次年度以降の具体的展開につながる土台を築いた。

運営体制図

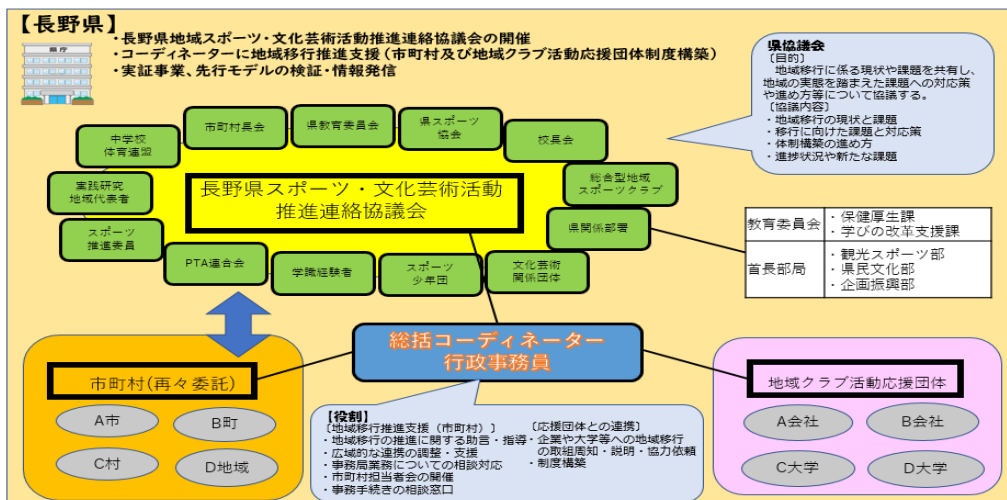


自治体の課題、現状

- 市町村数（77市町村、全国2位）及び過疎市町村数（40市町村、全国3位）が多く、人口減少の拡大と少子高齢化の進展により地域社会を支える人材が不足。
- 生徒の多様なニーズに応じた活動を保障するため広域連携の取組が多く、令和7年度は39地域57市町村が国の実証事業に取り組んだ。
- 広い県土（全国4位）の84%が山地で、フォッサマグナと中央構造線が交差する山地と盆地が入り組む複雑な地勢のため、近隣市町村への移動に時間を要す。
- 多くの公民館（1,789館、全国1位）、中学生の地域行事参加率（65.7%、全国3位）も高く、地域コミュニティが残存し、学校・社会教育に対して地域が協力的。

- **県総括コーディネーター**による訪問支援や地区担当者会を通して**広域連携を推進**
- 文化芸術活動の地域展開を一層推進するための、**自治体や関係団体との情報共有の強化**が必要
- **全県レベルでの指導者人材バンク**を構築し、地域クラブへのマッチング支援が必要
- 豊かな自然や地域の特色を生かした**多様な体験機会の創出**が必要

運営体制図



取組の概要や成果

（１）信州地域クラブ活動指導者人材バンクの構築 ～県警本部と暴力団排除連携協定の締結～

- 市町村と登録者が直接交渉可能な人材バンクの構築
- 地域クラブ活動の指導協力者における暴力団の排除



(2) 中学校における文化芸術活動の地域展開に係るオンライン情報交換会の開催

- 先行事例の共有、関係諸団体による情報提供を通して、参加者が今後の方向性や具体的な取組の可能性を共有



（３）中学校部活動の地域展開フォーラム ～県内外の有識者・関係者による情報交換～

- 持続可能な地域クラブ活動の構築に係る意見交換
- 県内外から120名の関係者が地域展開への理解を深めた



**（４）まつチャレフェスタ2025！
～地域クラブ活動体験会の開催～**

- 地域クラブ活動への参加促進のための体験会を開催
- 子どものニーズに応じた多様な体験機会を創出



(6) その他

- 指導者募集街頭啓発活動
- 信州地域クラブ活動応援サポーター制度の創設
- 産官学連携フォーラムにおいて本県ブースの設置



自治体の課題、現状

安曇野市では、まずはスポーツ関係団体によって構成する協議会の設置を目指していたが、関係団体の協力を得ることができなかった。このことにより、原則として各中学校の部活動を単位として「地域クラブ」を設立し、休日の活動を部活動から地域クラブ活動へ移行していくことを方針に協議を進めてきた。

市内文化団体については、合併前の旧町村の単位で小規模で活動する文化団体はあるものの、部活動の地域展開を考えられる余力はない状況である。

そのため、中学生の文化活動の地域展開は学校が文化部をどの様に考えていくかを主体に進めていく状況となっている。学校として、まずは部活動への部活動指導員や外部指導者などの活用から始めるものの、実態として文化部領域では運動部の指導者以上に確保が難しい状況となっている。その中で、吹奏楽部の外部指導者が確保できた中学校について、地域クラブとしての形式を整え、運用してみることからスタートした。

特に吹奏楽の場合、指導者、楽器とその保管場所、練習場所、生徒の移動などのすべてが課題となっている。

地域クラブ活動等の概要

中学校数	7 校	全生徒数	2,359 人
域内の部活動数	18 部	実施した地域クラブ数	1 クラブ
全体の指導者数	3 人	全体の運営スタッフ数	0 人
主な運営団体	地域クラブによる自主運営		
主な種目	吹奏楽		
平均的な活動回数	4 回/月	年間平均参加生徒実数	3 年：13人/1クラブ 2 年：21人/1クラブ 1 年：13人/1クラブ
参加会費	1,500円/月	主な活動場所	豊科南中学校

取組の概要や成果

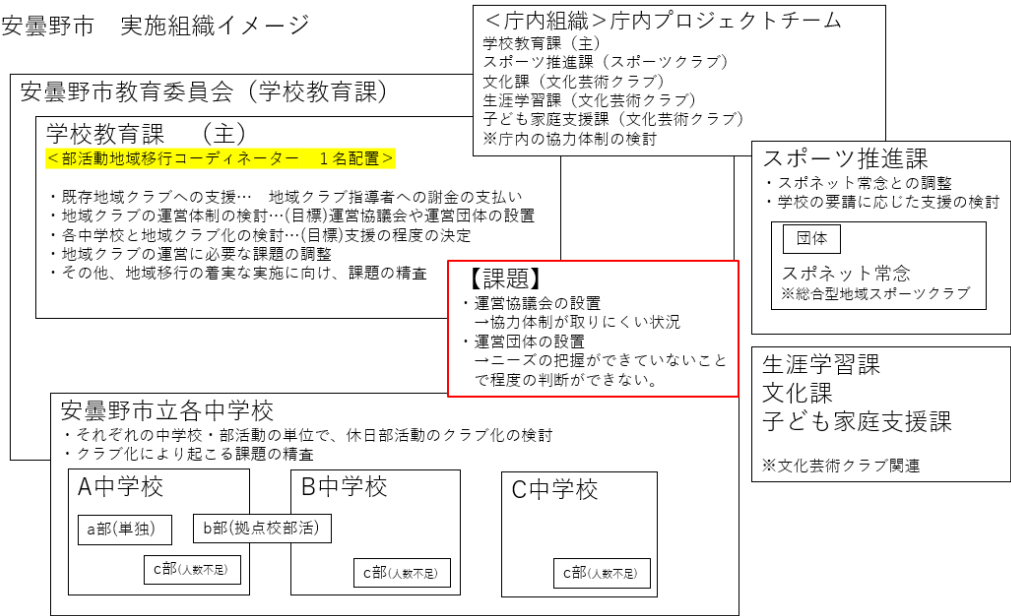
部活動地域移行コーディネーターの配置

部活動の地域展開を進めるために、学校や地域クラブとの連携や連絡調整を円滑に行うためにコーディネーターを配置した。

地域クラブの指導者謝金の負担

地域クラブが将来負担するであろう指導者謝金を行政が負担することで、地域クラブの運営支援を行った。持続のためには支援の程度を定める必要性などの課題も見えてきた。

運営体制図



自治体の課題、現状

- ・合唱部は、かつてはすべての中学校にあったが、今は一つの中学校のみとなっている。その中学校でも人数が少なく活動に苦慮している。
- ・吹奏楽部は、どの中学校でも部員減少があり思うような編成が出来ず苦労している。
- ・平日の勤務時間外の指導の負担・休日の練習、講習会、コンクール等に参加することの負担
- ・未経験の種目を指導する負担
- ・「もっとやりたい」「専門的な指導をして欲しい」「もっとゆるく仲間と楽しみたい」等、生徒のニーズが多様化してきている。

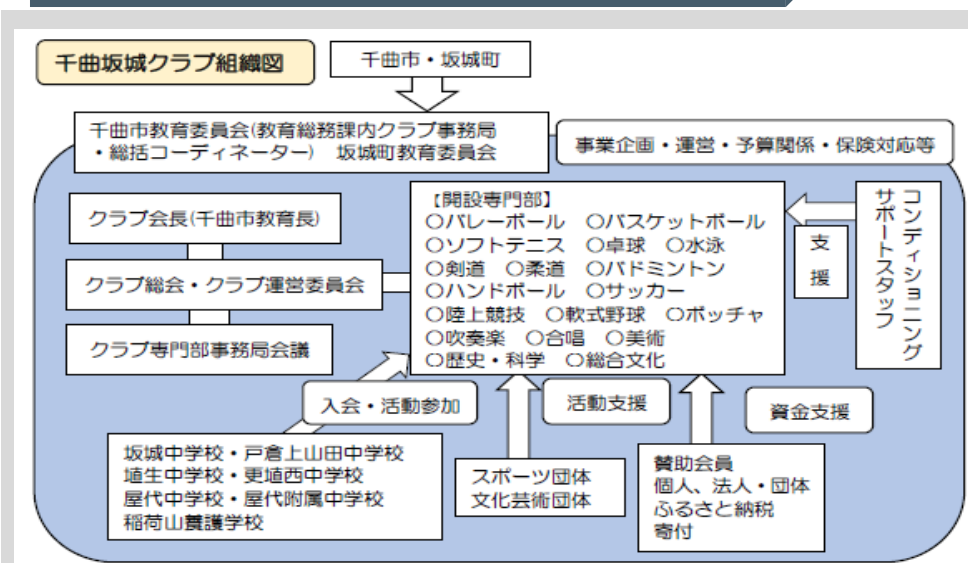
地域クラブ活動等の概要

中学校数	千曲市立4中学校 坂城町立1中学校	全生徒数	1,676人
域内の部活動数	11 部	実施した地域クラブ数	5クラブ(専門部)
全体の指導者数	64 人	全体の運営スタッフ数	4 人
主な運営団体	千曲坂城クラブ		
主な種目	吹奏楽・合唱・美術・歴史科学・総合文化		
平均的な活動回数	2回/月 休日 2回/週 平日	年間平均参加生徒実数	3年：12人/クラブ 2年：18人/クラブ 1年：19人/クラブ
参加会費	3,000円/年	主な活動場所	中学校、市施設

取組の概要や成果

- ・本年度は、「休日の部活動は、すべて千曲坂城クラブの活動とする」としたが、順調に移行することができた。
- ・平日の活動については、合唱専門部、美術専門部で試行することができた。
- ・昨年度から立ち上げた専門部も軌道に乗り、充実した活動を行うことができた。「歴史科学専門部」では、古墳館の様々なイベントへの参加をはじめ、射水市との交流事業への参加等素晴らしい活躍だった。また総合文化専門部では、各公民館で充実した活動を展開できた。
- ・稲荷山養護学校への出張教室をスタートさせることができ、参加者には大変喜ばれた。徐々に参加者も増えてきている。
- ・持続可能な運営にしていけるためには、「受益者負担」を多くしていくことが必須であるが、保護者説明会等を通じ理解を図ることができた。
- ・賛助会については、目標額「1,000,000円以上」を達成することができた。
- ・マスコミ等でクラブの活動が取り上げられることも多く、クラブに対する関心が高まっている。
- ・新しく連絡アプリ「スクレ」集金アプリ「スクペイ」を導入したが、約7割の保護者に登録していただくことができた。

運営体制図



自治体の課題、現状

須坂市の2022年度の生徒数は1,304人、2031年度の生徒数は1,128人と推測され、10年間で13.5%、176人が減少する見込みとなっている。また、長野県の毎月人口移動調査では、2025年4月1日現在の須坂市の0歳児は239人と発表されている。この0歳児が中学生になる2037年度は、2022年度の一学年の人数が435人に対し、約45%減少することになる。部活動の種目数が減少傾向の中、吹奏楽、合唱などは、更に一つの学校だけでは編成が厳しくなることが予想される。また、教職員業務の負担軽減を図るため、働き方改革を推進してきたが、教職員に求められる新たな課題も多く、更に縮減を進める必要がある。そのためにも部活動の地域展開を進める必要がある。

地域クラブ活動等の概要

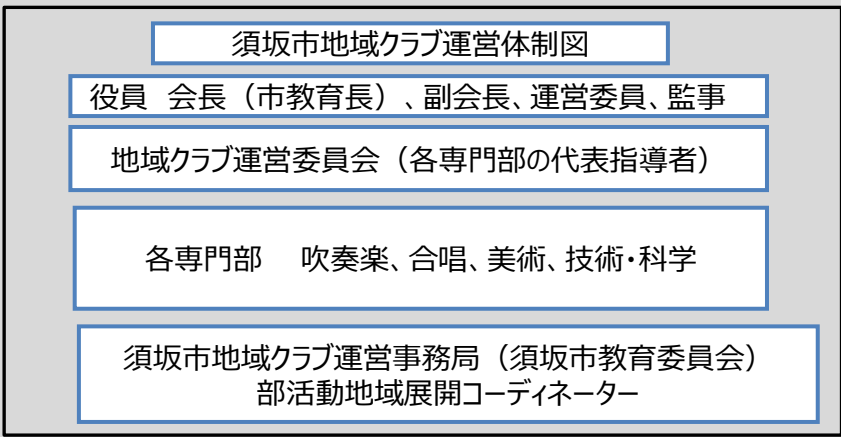
中学校数	4校	全生徒数	1,222人
域内の部活動数	15部	実施した地域クラブ数	4クラブ
全体の指導者数	17人	全体の運営スタッフ数	3人
主な運営団体	須坂市教育委員会		
主な種目	吹奏楽、合唱、美術、技術・科学		
平均的な活動回数	2回/月	年間平均参加生徒実数	2年：7人/クラブ 1年：11人/クラブ
参加会費	500円/月	主な活動場所	市公共施設

取組の概要や成果

地域クラブの体制整備を進め、7月からは合唱、美術、技術・科学の3活動で地域クラブ活動の試行を実施し、試行を行わなかった吹奏楽も顧問、地域クラブ指導者と状況を確認したうえで、今年度の実施目標であった地域クラブ設立総会を10月7日に計画どおり開催することができた。これにより須坂市地域クラブを正式にスタートさせることができた。総会では、地域クラブ規約、運営方針、役員、会費額、予算、事業計画について審議し、それぞれ決定することができた。

以降、吹奏楽、合唱、美術、技術・科学の4活動で月2回程度地域クラブ活動を実施している。

運営体制図



- 会長（統括責任者） 地域クラブの企画運営、環境整備等の統括を行う。
- 運営委員（代表指導者9名）各専門部の活動を統括 活動計画、活動内容の検討、決定、指導方針の決定、指導者への指導・助言等を行う。
- 運営事務局 会費徴収、指導者謝礼支払、日程・会場等の調整等を行う。

自治体の課題、現状

■ 当市の部活動の状況

- 市内中学校 1校、義務教育学校 2校
- 大町中学校：運動部 9 団体、文化部 4 団体
- 美麻小中学校：美術部、バドミントン部
- 八坂小中学校は部活動なし
- 地域展開実績なし

【課題、不安要素】

- 学校管理の部活動が地域に移行することで、子ども達がスポーツ・文化活動に親しむ受け皿がなくなることへの不安
- 専門的な指導ができる指導者の確保が困難
- 会費等、保護者の負担増への不安

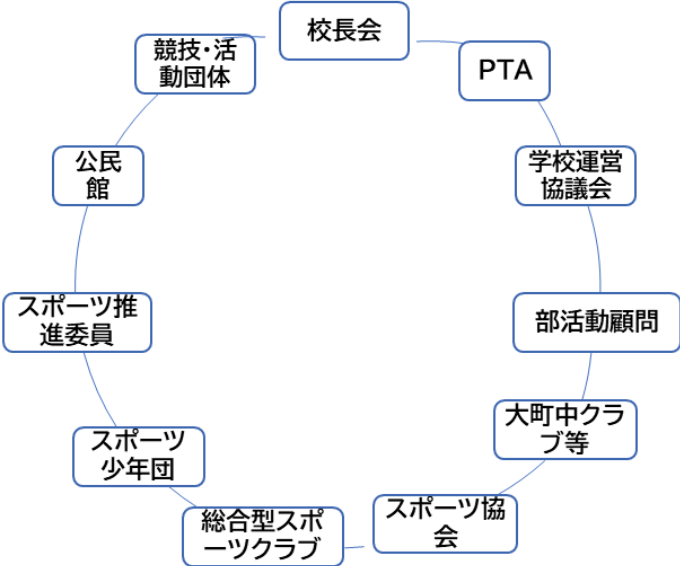
地域クラブ活動等の概要

中学校数	3 校	全生徒数	5 1 8 人
域内の部活動数	5 部	実施した地域クラブ数	0 クラブ
全体の指導者数		全体の運営スタッフ数	
主な運営団体			
主な種目			
平均的な活動回数		年間平均参加生徒実数	
参加会費		主な活動場所	

取組の概要や成果

- ◎ 令和7年4月に大町市学校部活動地域展開推進協議会を設立し、基本方針、推進計画策定、公表、周知（市広報、ホームページ）を行う。推進計画に基づき、保護者説明会、各種部活動、スポーツ協会等関係機関とヒアリング等を行い課題整理を行う。
- ◎ 地域クラブ認定要項を作成し、団体募集、申請、認定を行う。（1 団体認定、1団体申請、審査中）
- ◎ 今年度は、推進体制の構築、認定要項の策定等、地域展開を円滑に図るための基盤固めに注力した。

運営体制図



自治体の課題、現状

富士見町原村の人口減少等の課題は、富士見町と原村の出生数の推移を比較すると、富士見町では平成27年は117人だったのが、令和4年49人、原村は平成27年72人だったのが、令和4年は41人となっている。（出典：「統計ふじみ」「原村の統計」）取組の現状は、令和6年度に合唱クラブと科学クラブが平日と休日の地域クラブ活動への展開を開始し、令和7年度に吹奏楽クラブが、休日の地域クラブ活動への展開を開始した。地域クラブ活動への展開に向けた課題は、地域指導者の発掘と財源の確保、生徒・保護者、地域住民の共通理解等である。

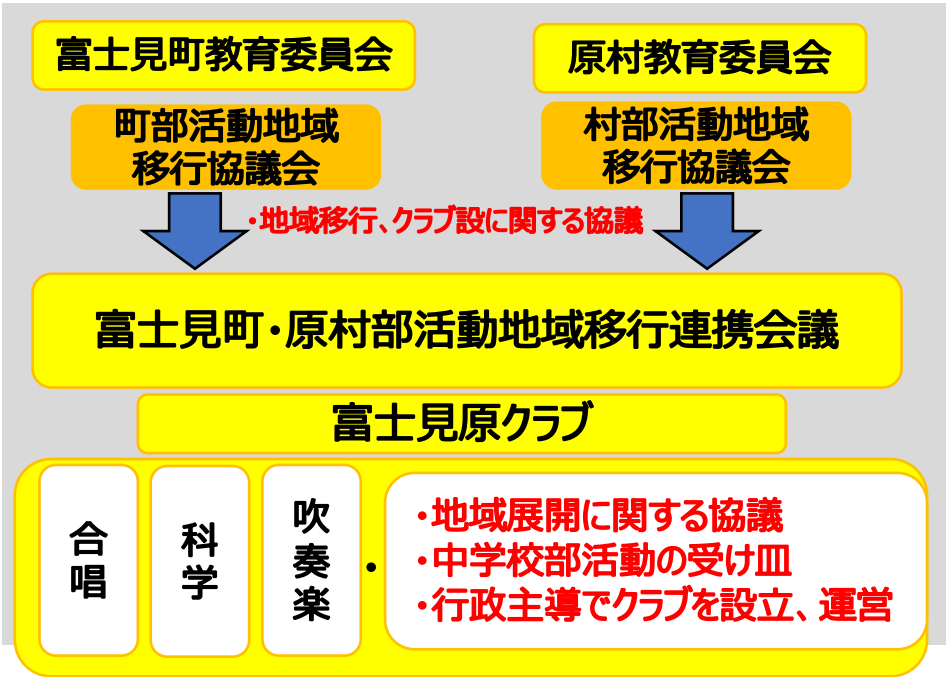
地域クラブ活動等の概要

中学校数	2校	全生徒数	555人
域内の部活動数	2部	実施した地域クラブ数	3クラブ
全体の指導者数	9人	全体の運営スタッフ数	25人
主な運営団体	富士見町・原村部活動地域移行連携会議		
主な種目	合唱、科学、吹奏楽		
平均的な活動回数	○16回/月	年間平均参加生徒実数	3年：21人/クラブ 2年：30人/クラブ 1年：26人/クラブ
参加会費	○0円/年	主な活動場所	富士見中学校 原中学校

取組の概要や成果

- 富士見町と原村の広域連携により、部活動の地域クラブ活動への展開を進めている。令和6年度は、合唱クラブと科学クラブが、令和7年度は、吹奏楽クラブが地域展開を開始した。工夫した点として、以下の点が挙げられる。
- ・合唱部は富士見中学校に設置されているが、原中には設置されていない。科学部は原中学校に設置されているが、富士見中学校には設置されていない。子どもたちの選択肢を増やすために、両クラブを立ち上げた。
 - ・生徒保護者連絡アプリを活用して、指導者との連絡等を円滑に進めた。
 - ・活動場所への移動手段として、公用車を利用した。

運営体制図



自治体の課題、現状

■ 下諏訪町の状況分析と意向の確認

- ・すでに下諏訪町教育委員会を中心に、自治体独自で協議会を設置済み
- ・協議会での打ち合わせを年2回程度予定し、町としての方針策定を仕込む段階
- ・地域展開に向けた全体構想設計は未完了で、具体的な推進モデルの設計や、計画策定には至っていない
- ・町及び教育委員会の傘下に、関連団体と内容を整理し、将来的には運営事務局を設置し、直営型クラブを構築する意向

地域クラブ活動等の概要

中学校数	2 校	全生徒数	394 人
域内の部活動数	2 部	実施した地域クラブ数	1 クラブ
全体の指導者数	2 人	全体の運営スタッフ数	2 人
主な運営団体	下諏訪町教育委員会		
主な種目	美術		
平均的な活動回数	4回/月	年間平均参加生徒実数	3年：0人/クラブ 2年：15人/クラブ 1年：15人/クラブ
参加会費	0 円/月	主な活動場所	町内中学校

取組の概要や成果

- ・協議会の場に松本山雅様にも参画していただくことで進捗報告や合意形成が進み、私たちの役割が明確になることで対応することができた。
- ・顧問や社会体育関係者との面談を進める中で、部活動地域展開における現場での理解状況を再確認し、町の担当者様と常にコミュニケーションを図りながら、町の方針に沿った具体的な計画の策定と実行に向け推進できた
- ・下諏訪町が想定している運営体制を参考に、町及び教育委員会の傘下に、松本山雅の体制を組み込むことで効率良く連携することができた

運営体制図

